

医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅰ シラバス



公益社団法人 日本医療ソーシャルワーカー協会

2024年11月30日作成

目 次

医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅰ科目一覧	〇2
〇0 厚生労働行政の動向	〇3
〇1 医療における社会保障政策の動向	〇4
〇2 医療ソーシャルワークの成立の経緯と今後の課題	〇5
〇3 医療ソーシャルワークの価値と倫理Ⅰ	〇6
〇4 医療における「患者・家族」へのソーシャルワークⅠ	〇7
〇5 生活機能障害とソーシャルワーク	〇8
〇6-① 医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識① 糖尿病	〇9
〇6-② 医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識② 脳卒中	10
〇6-③ 医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識③ がん	11
〇6-④ 医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識④ 緩和ケア	12
〇6-⑤ 医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識⑤ アルコール関連問題とアディクション	13
〇6-⑥ 医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識⑥ 認知症	14
〇6-⑦ 医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識⑦ 在宅医療	15
〇6-⑧ 医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識⑧ 心疾患	16
〇7 医療ソーシャルワーカーの連携・協働とチーム医療Ⅰ	17
〇9 医療ソーシャルワークで用いられる実践理論とアプローチⅠ	18
10 医療ソーシャルワークにおける面接の方法と技術Ⅰ	19
11 医療ソーシャルワークにおけるアセスメントの理論と方法Ⅰ	20
12 ソーシャルワーク記録Ⅰ	21
13 医療ソーシャルワーク実践の事例検討の方法Ⅰ	22
14 ソーシャルワークのスーパービジョンⅠ（基礎）	23
15 医療ソーシャルワークの業務改善マネジメントⅠ	24
16 ソーシャルワーク・リサーチⅠ	25

医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅰ科目一覧

テキスト	科目名	研修開催形式	時間 (分)
第0章	厚生労働行政の動向	e-Learning	60
第1章	医療における社会保障政策の動向	e-Learning	90
第2章	医療ソーシャルワークの成立の経緯と今後の課題	e-Learning	90
第3章	医療ソーシャルワークの価値と倫理Ⅰ	Web ライブ	135
第4章	医療における「患者・家族」へのソーシャルワークⅠ	e-Learning	90
第5章	生活機能障害とソーシャルワーク	e-Learning	90
第6章	医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識① 糖尿病	e-Learning	90
	医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識② 脳卒中	e-Learning	90
	医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識③ がん	e-Learning	90
	医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識④ 緩和ケア	e-Learning	90
	医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識⑤ アルコール関連問題とアディクション	e-Learning	90
	医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識⑥ 認知症	e-Learning	90
	医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識⑦ 在宅医療	e-Learning	90
	医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識⑧ 心疾患	e-Learning	90
第7章	医療ソーシャルワーカーの連携・協働とチーム医療Ⅰ	Web ライブ	135
第8章	診療報酬とソーシャルワーク ※	—	—
第9章	医療ソーシャルワークで用いられる実践理論とアプローチⅠ	e-Learning	90
第10章	医療ソーシャルワークにおける面接の方法と技術Ⅰ	e-Learning	90
第11章	医療ソーシャルワークにおけるアセスメントの理論と方法Ⅰ	Web ライブ	135
第12章	ソーシャルワーク記録Ⅰ	e-Learning	90
第13章	医療ソーシャルワーク実践の事例検討の方法Ⅰ	e-Learning	90
第14章	ソーシャルワークのスーパービジョンⅠ	e-Learning	90
第15章	医療ソーシャルワークの業務改善マネジメントⅠ	e-Learning	90
第16章	ソーシャルワーク・リサーチⅠ	e-Learning	90

※「診療報酬とソーシャルワーク」はテキスト8章を熟読の上、当協会実施の「診療報酬研修会」への参加を推奨。

医療ソーシャルワーカー基幹研修 I - 0	
科 目	厚生労働行政の動向（毎年変更部分に注意）
テ ー マ	厚生労働行政の最新の動き、データの重要性について理解する。
研 修 形 態	E-Learning
研 修 時 間	60分
目 的	1. 厚生労働行政の最新の動きについてデータに基づいて学ぶ。 2. 我が国の厚生労働行政への影響について国際的機関等の動向から理解する。
到 達 目 標	1. 厚生労働行政の最新の動きについてデータに基づいて理解する。 2. 厚生労働行政へ国際的機関等の動向がどのように影響しているのかを知る。 3. データの重要性について指摘できるようになる。
伝えること	• 最新のトピックスを中心にデータを用いて伝える。

医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅰ－1	
科 目	医療における社会保障政策の動向
テ ー マ	医療ソーシャルワークに必要な社会保障制度について確認する。
研 修 形 態	E-Learning
研 修 時 間	90分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術－キャリアアップのための実践力の構築－』2023年、第1章、1-11
目 的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障制度成立に関連した様々な社会構造・時代背景などを学び、その上で「21世紀モデル」の社会保障制度改革を理解する。 2. 現在の少子高齢化から生じる問題を理解する。 3. これまでの医療に関する施策を理解する。 4. 今後の社会保障制度改革を考察できる。
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの社会保障制度の歴史的経緯を理解した上で、「21世紀モデル」の社会保障制度改革が理解できる。 2. 現在の少子高齢化から生じる問題を、具体的に理解できる。 3. これまでの医療に関する施策を、具体的に理解できる。 4. 今後の社会保障制度改革について説明できる。
伝 える 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会保障制度における医療保障制度への理解を深めることで、クライアントの置かれた状況や所属する医療機関への影響などを伝える。 ・ 法律・制度の成立を社会構造・時代背景・必要性・問題などを考察できる多角的視点を養い、ソーシャルワーク実践に役立てられるようにする。 ・ 現在の医療施策の抱える課題が、患者・家族にどのような影響を及ぼしているか、制度活用や開発といった視点を提供する。 ・ 診療報酬は調査研究部の研修に紐づけ、この講義では扱わない。 ・ 生活者としての患者・家族の多様なニーズを、社会と生活、地域と生活などの多角的視点でとらえ、医療保障制度を含む社会保障制度活用を事例などで具体的に考察できるようにする。 ・ 社会保障制度を含む様々な社会資源の改善のため、課題の分析からソーシャルアクションに繋げることの重要性について示唆する。 ・ 事例を適宜講義に入れ、具体的な社会保障制度の活用やソーシャルアクションについて学べるようにする。

医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅰ-2	
科 目	医療ソーシャルワークの成立の経緯と今後の課題
テ ー マ	医療ソーシャルワークの成立・意義・課題・国際活動を理解する。
研 修 形 態	E-Learning
研 修 時 間	90分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023年、第2章、12-23
目 的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療機関では、ソーシャルワークの視点、社会福祉の視点が必要不可欠であることを、歴史的な経緯に沿って理解する。 2. 医療ソーシャルワーカーの定着までの歴史的経緯を理解する。 3. 保健医療機関におけるソーシャルワークの重要性とその課題を理解する。 4. 国際ソーシャルワーカー連盟・日本ソーシャルワーカー連盟の役割を理解し、ソーシャルワーカーの世界的連帯とその支援の意義を理解する。
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療機関におけるソーシャルワークの視点や資格化の必要性を、歴史的背景から理解する。 2. 保健医療機関にソーシャルワーカーが存在する意義を理解し、その過程を通じて重要性を理解する。 3. 国際ソーシャルワーカー連盟・日本ソーシャルワーカー連盟の役割を理解し、関心が持てるようになる。
伝 える 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワークの歴史を知り、医療ソーシャルワーカーが存在する意義や課題を解説する。 ・資格化を巡る経緯や課題などを理解できるようにする。 ・医療モデルと生活モデルの融合への理解を促し、保健医療機関におけるソーシャルワークには、福祉的視点が重要であることを説明する。 ・保健医療分野のソーシャルワーカーが社会の要請にどのように応えてきたか、譲れない地歩をどう守ってきたかを、施策も踏まえ解説する。 ・地域における重要な社会資源としての保健医療機関を理解し、ソーシャルワークが担う重要な役割を示す。 ・ソーシャルワーカーの国際的連帯について具体的に示し、ソーシャルワーク実践は国内にとどまらないことを伝える。 ・日本における国際的な課題について理解できるようにする。

医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅰ-3	
科 目	医療ソーシャルワークの価値と倫理Ⅰ
テ ー マ	医療ソーシャルワーカーの価値と倫理について理解する
研 修 形 態	Web ライブ研修
研 修 時 間	135 分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023 年、第3章、24-33
目 的	<ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワークの価値・倫理の意味と歴史的変遷について、専門職倫理の重要性と共に理解する。 2. 倫理綱領・行動基準のジレンマとアドボカシーについて理解する。 3. ジレンマと意思決定のプロセスについて理解し、説明できる。 4. 日々の実践が倫理綱領に基づいていることを実感し、説明できる。 5. 倫理的ジレンマを認識でき、その対応をソーシャルワークの観点から考察できる。
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 価値・倫理がソーシャルワーク実践の基盤であることが理解できる。 2. 専門職倫理の重要性を認識し、倫理綱領・行動基準・ガイドラインを学び、実践の拠りどころであることを理解する。 3. 倫理綱領・行動基準を日常業務の基盤に置き、具体的に活用できる。 4. 倫理的ジレンマを認識し、ソーシャルワークの専門性をもって考察・検討できる。
伝 える 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワークの定義、医療ソーシャルワーカー倫理綱領の存在を知っていても、日常業務と関連づけて考察することは難しい。実践を行動基準に則って行うよう意識できるようにする。 ・「ソーシャルワーカーの倫理綱領」における原理（人間の尊厳・人権・社会正義・手段的責任・多様性の尊重・全人的理解）を学び、ミクロレベルの実践にそれらがあることを理解し、日常の実践と関連づけるようにする。 ・講義では事例を示し、ソーシャルワーク実践の基盤にソーシャルワークの「価値・倫理」があり、常にそれと照合しながら実践する重要性を理解できるようにする。 ・演習では受講者が実践とのすり合わせを体験し、必要に応じグループディカッションを盛り込めるとよい。 ・受講者が多く経験し、演習でも議論しやすい事例を提供する。 ・基幹研修Ⅱの「価値と倫理Ⅱ」につなぎ、段階的な学びを意識した講義とする。

医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅰ-4	
科 目	医療における「患者・家族」へのソーシャルワークⅠ
テ ー マ	家族の統合的理解・家族ソーシャルワークを理解する。
研 修 形 態	E-Learning
研 修 時 間	90分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023年、第4章、34-43
目 的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族の定義や家族の概念を理解し、患者・家族の立ち位置を多角的に理解する。 2. 家族ソーシャルワークの歴史的変遷やその必要性を理解する。 3. 家族ソーシャルワークの変遷として、面接形態やそれ等からわかる理論の変遷を理解する 4. 法律や社会学、心理学など、家族の概念を理解するための基本的な諸要件や知識を学ぶ。 5. 学んだ知識を踏まえ、具体的な家族の理解、活用方法として家族システムズ論を学ぶ。 6. 具体的な支援展開について、事例を通して学ぶ。
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族を支援対象にする視点について説明できる。 2. 家族ソーシャルワークの歴史的な変遷を理解し、意識的に実践できる。 3. 家族について、社会的な視点、法律や制度的な視点などの基礎的な知識を理解し、家族ソーシャルワークの基礎となる諸要件について説明できる。 4. ソーシャルワーカーとして支援すべき生活課題に、家族がどう関係しているのかについて理論を理解し説明できる。 5. 具体的な事例から、家族システムズ論に基づく支援展開を理解し説明できる
伝 える 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・医療ソーシャルワーカーが家族を理解することの意味を伝える。 ・患者と家族の関係性や生活の意味など、家族を支援対象にする視点の理解を目指す。 ・社会的理解、法律や制度的理解、心理学的理解などの基礎的な知識について学び、適宜専門家と連携することを伝える。 ・事例を通して、支援展開を説明する際、図や表、マッピング技法やセルフワーク等を用いてわかりやすく伝える工夫をする。

医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅰ-5	
科 目	生活機能障害とソーシャルワーク
テ ー マ	生活機能障害に対するソーシャルワークを理解する。
研 修 形 態	E-Learning
研 修 時 間	90分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023年、第5章、44-53
目 的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 傷病への注目と、そこから起こる生活機能障害（生きづらさ・困難）を抱えたクライアントへの支援を理解する。 2. クライアントを全人的に捉え、そのニーズ把握と共にストレングス発見にも努めながら、ソーシャルワーカーの支援を学ぶ。 3. 障害者の現状や心理・社会的問題を理解し、関連法や政策、自己決定や意思決定支援などの人権意識をもった支援を理解する。 4. 就労など様々な社会参加がクライアントの自己実現には欠かせない事を理解する。 5. ピアや患者会などの活用が重要であることを学ぶ。
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 傷病と生活を、ICFなどで十分にアセスメントし、生活機能障害への対応ができる。 2. クライアントのライフスタイル・ニーズ・ストレングスなどを、クライアントと共に整理し、その人らしい生活への支援ができる。 3. 障害者の現状、障害受容の過程、関連法・政策、自己決定や意思決定支援などを通し、人権を意識して生活再構築への支援ができる。 4. 就労を含めた様々な社会参加の重要性を理解し、クライアントの自己実現にむけた支援ができる。 5. 生活支援・就労支援などに必要な社会資源の創設事例、クライアントの自己実現をピアが支える事例などを具体的に知り支援に必要なソーシャルアクションの重要性について意識する。
伝 える 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・生活者としてのクライアントを、ミクロ・メゾ・マクロレベル視点で捉えて支援する重要性を根底に置く。 ・ICF・生活モデル・社会モデルなどで、クライアントの状況を理解する。 ・生活支援・就労支援など、クライアントのライフスタイルや考え方で課題は異なるため、十分なアセスメントの上で支援することを伝える。 ・障害に関連する定義・関連法を具体的な名称を用いて説明する。 ・人権擁護やソーシャルアクションを行う必要性にも繋がる講義とする。

医療ソーシャルワーカー基幹研修 I -6-①	
科 目	医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識① 糖尿病
テ ー マ	糖尿病・脳血管疾患・人工透析・疾病による生活課題と医療ソーシャルワーカーの役割について理解する。
研 修 形 態	E-Learning
研 修 時 間	90 分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023 年、第6章
目 的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療機関におけるソーシャルワーク実践の特徴は、傷病により生じる様々な生活課題を抱えたクライアントに関わることである。このようなクライアントへの問題解決にむけた適切な支援のため、基礎的な医学知識を理解する。 2. この講義では、日常生活に影響を及ぼす代表的な疾患のひとつである糖尿病を中心に合併症や関連疾患までの理解を深める。 3. さらにその合併症・関連疾患が及ぼす社会的・心理的な影響について理解し、ソーシャルワーク実践に生かせるようにする。 4. 多職種との連携・協働を意識できるようになる。 5. 必要な場合のソーシャルアクションも視野に入れる。
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 糖尿病や合併症・関連疾患について理解を深め、理解が難しい症状などについて他職種などに相談できる。 2. 多職種が協働して行うカンファレンスや病状説明の場面などで、現症や予後についてイメージできる。 3. 糖尿病や合併症・関連疾患が及ぼす患者・家族の社会的・心理的な影響について理解し、ソーシャルワーク実践に生かすことができる。 4. チーム医療の中でソーシャルワーカーの機能・役割について説明し、他職種との連携・協働ができる。 5. 糖尿病関連の制度政策・サービスなどの課題や限界があれば把握し、必要に応じたソーシャルアクションに繋がられる。
伝 える 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病や合併症による腎不全・人工透析・糖尿病性網膜症・糖尿病性神経障害・脳血管疾患などについて理解・イメージできるよう説明する ・脳血管疾患は「医学知識 脳卒中と連携パス」で触れるので、このセッションでは詳細は説明せず糖尿病関連疾患に留める。 ・糖尿病や合併症・関連疾患が及ぼす社会的・心理的な影響について事例などを用いて具体的に説明し、ソーシャルワーク実践に生かせるようにする。 ・チーム医療やソーシャルアクションの事例などがあれば紹介する。

医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅰ-6-②	
科 目	医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識② 脳卒中
テ ー マ	脳卒中等脳血管疾患・地域連携クリニカルパス・疾病による生活課題と医療ソーシャルワーカーの役割について理解する。
研 修 形 態	E-Learning
研 修 時 間	90分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023年、第6章
目 的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療機関におけるソーシャルワーク実践の特徴は、傷病により生じる様々な生活課題を抱えたクライアントと関わることである。このようなクライアントへの問題解決にむけた適切な支援のため、基礎的な医学知識を理解する。 2. この講義では、日常生活に影響を及ぼす代表的な疾患のひとつである脳卒中を中心に、脳卒中後遺症、脳卒中における生活課題、脳卒中地域連携クリニカルパスの理解を深める。 3. さらに脳卒中やその後遺症が及ぼす社会的・心理的な影響について理解し、ソーシャルワーク実践に生かせるようにする。 4. 多職種との連携・協働を意識できるようになる。 5. 必要な場合のソーシャルアクションも視野に入れる。
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳卒中やその後遺症について理解を深め、理解が難しい症状などについて他職種などに相談できる。 2. 脳卒中・脳卒中後遺症について理解し、カンファレンスや病状説明の場面などで現症や予後についてイメージできる。 3. 脳卒中が及ぼす患者・家族の社会的・心理的な影響について理解し、ソーシャルワーク実践に生かすことができる。 4. 脳卒中地域連携クリニカルパスの意義を理解し、地域の脳卒中医療におけるソーシャルワーカーの役割を理解する。 5. チーム医療の中でソーシャルワーカーの機能・役割について説明し、他職種との連携・協働ができる。 6. 脳卒中関連の制度政策・サービスなどの課題や限界があれば把握し、必要に応じたソーシャルアクションに繋がられる。
伝 える こと	<ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中（脳梗塞・脳出血・クモ膜下出血）、脳卒中後遺症、脳卒中による生活課題、脳卒中地域連携クリニカルパスなどについて理解・イメージができるよう説明する。 ・脳卒中や後遺症が及ぼす社会的・心理的な影響について事例などを用いて具体的に説明し、ソーシャルワーク実践に生かせるようにする。 ・チーム医療やソーシャルアクションの事例などがあれば紹介する。

医療ソーシャルワーカー基幹研修 I -6-③	
科 目	医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識③ がん
テ ー マ	がん（5大がん）の標準的治療・集学的治療と合併症・後遺症・副作用・疾病による生活課題・がん領域における医療ソーシャルワーカーの役割について理解する。
研 修 形 態	E-Learning
研 修 時 間	90分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023年、第6章
目 的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療機関におけるソーシャルワーク実践の特徴は、傷病により生じる様々な生活課題を抱えたクライアントと関わることである。このようなクライアントへの問題解決にむけた適切な支援のため、基礎的な医学知識を理解する。 2. この講義では、日常生活に影響を及ぼす代表的な疾患のひとつであるがんを中心に、その標準的治療や副作用などについて理解を深める。 3. がん治療に伴う身体・精神状況の変化や後遺症が、患者や家族に与える社会的・心理的な影響について理解し、ソーシャルワーク実践に生かせるようにする。 4. 多職種との連携・協働を意識できるようになる。 5. 必要な場合のソーシャルアクションも視野に入れる。
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. がんやその後遺症などについて理解を深め、理解が難しい症状などについて他職種などに相談できる。 2. がんやその後遺症などについて理解し、カンファレンスや病状説明の場面などで現症や予後についてイメージできる。 3. がんが及ぼす患者・家族の心理・社会的な課題について理解し、ソーシャルワーク実践に生かすことができる。 4. チーム医療の中でソーシャルワーカーの機能・役割について説明し、他職種との連携・協働ができる。 5. がん関連の制度政策・サービスの課題や限界があれば把握し、必要に応じたソーシャルアクションを行うことができる。
伝 える 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・多岐にわたるがん治療のポイントを説明するのは難しいため、医学的知識を含め、ソーシャルワーカーが知っておく必要のある最低限の知識を系統立てて理解できるようにする。 ・がんが及ぼす心理的・社会的な影響について事例などを用いて説明し、ソーシャルワーク実践に生かせるようにする。 ・緩和ケアおよび在宅医療については、他の講義で行うため、重複の必要はない。 ・チーム医療やソーシャルアクションの事例があれば紹介する。

医療ソーシャルワーカー基幹研修 I -6-④	
科 目	医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識④ 緩和ケア
テ ー マ	全人的苦痛・緩和ケア・緩和ケア領域におけるソーシャルワーカーの役割について理解する。
研 修 形 態	E-Learning
研 修 時 間	90 分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023 年、第6章
目 的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療機関におけるソーシャルワーク実践の特徴は、傷病により生じる様々な生活課題を抱えたクライアントと関わることである。このようなクライアントへの問題解決にむけた適切な支援のため、基礎的な医学知識を理解する。 2. がんに罹患した患者などで人生の終末期に直面した患者・家族の心理的・社会的課題苦痛や喪失・悲嘆のプロセスについて理解し、ソーシャルワーク実践に生かせるようにする。 3. 終末期における自己決定や意思決定支援の重要性を理解する。 4. 多職種との連携・協働を意識できるようになる。 5. 必要な場合のソーシャルアクションも視野に入れる。
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワーカーの支援に必要な病状や予後などを理解し、理解が難しい症状などについて他職種などに相談できる。 2. カンファレンスや病状説明の場面などで現症や予後についてイメージできる。 3. がんなどの病気が及ぼす患者・家族の心理・社会的な課題について理解し、ソーシャルワーク実践に生かすことができる。 4. 終末期の意思決定の問題を ACP（アドバンスケアプランニング）を通じて考える機会とし、患者や家族の決定の重要性を理解する。 5. チーム医療の中でソーシャルワーカーの機能・役割について説明し、他職種と連携・協働できる。 6. 緩和ケア関連の制度政策・サービスの課題や限界があれば把握し、必要に応じたソーシャルアクションを行うことができる。
伝 える 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・がんやその他の疾患などの進行が及ぼす心理的・社会的な影響について事例などを用いて具体的に説明し、ソーシャルワーク実践に活かせるようにする。 ・チーム医療やソーシャルアクションの事例があれば紹介する。

医療ソーシャルワーカー基幹研修 I -6-⑤	
科 目	医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識⑤ アルコール関連問題とアディクション
テ ー マ	アルコール関連問題・家族と本人の共依存関係・アディクション領域における医療ソーシャルワーカーの役割について理解する。
研 修 形 態	E-Learning
研 修 時 間	90分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023年、第6章
目 的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療機関におけるソーシャルワーク実践の特徴は、傷病により生じる様々な生活課題を抱えたクライアントに関わることである。このようなクライアントへの問題解決にむけた適切な支援のため、基礎的な医学知識を理解する。 2. 日常生活に影響を及ぼすアルコール依存症やアディクション、その関連問題を理解する。 3. アルコール依存症の診断基準等を学び、回復する病気であることを理解する。 4. チーム医療の中でソーシャルワーカーの役割を説明し、他職種との連携・協働ができる。 5. アルコール依存症やアディクション関連の制度政策・サービスの課題や限界があれば把握し、必要に応じたソーシャルアクションを行うことができる。
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. アルコール関連問題やアディクションの課題について理解し、ソーシャルワーカーの役割について理解し、検討できる。 2. 他の疾患（身体科）に隠れたアルコール問題を踏まえたアセスメントで、一般医療機関においても出会うアルコール問題を把握できる。 3. この疾患が患者・家族に及ぼす社会的・心理的な影響を理解する。 4. チーム医療の中でソーシャルワーカーの機能・役割について説明し、他職種と連携・協働できる。 5. アルコール依存症やアディクション関連の制度政策・サービスなどの課題や限界があれば把握し、必要に応じたソーシャルアクションに繋げられる。
伝 える 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の飲酒による身体への影響を理解し、一般病院で出会う患者の中に隠れているアルコール問題を理解できるようにする。 ・ 病的飲酒であることを理解し、「アウトリーチ」について伝えるようにする。 ・ アルコール依存症やアディクションが及ぼす社会的・心理的な影響について事例などを用いて具体的に説明し、ソーシャルワーク実践に生かせるようにする。 ・ チーム医療やソーシャルアクションの事例などがあれば紹介する。

医療ソーシャルワーカー基幹研修 I -6-⑥	
科 目	医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識⑥ 認知症（若年性認知症含む）
テ ー マ	認知症の種類・標準的な治療・BPSD・環境変化に伴う関わりの留意点・認知症領域における医療ソーシャルワーカーの役割について理解する。
研 修 形 態	E-Learning
研 修 時 間	90分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023年、第6章
目 的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療機関におけるソーシャルワーク実践の特徴は、傷病により生じる様々な生活課題を抱えたクライアントに関わることである。このようなクライアントへの問題解決にむけた適切な支援のため、基礎的な医学知識を理解する。 2. この講義では、日常生活に影響を及ぼす代表的な疾患のひとつである認知症（若年性認知症を含む）について理解する。 3. 患者・家族への社会的・心理的な影響について理解し、ソーシャルワーク実践に生かせるようにする。 4. 多職種との連携・協働を意識できるようになる。 5. 必要な場合のソーシャルアクションも視野に入れる。
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症について理解を深め、理解が難しい症状などについて他職種などに相談できる。 2. 多職種が協働して行うカンファレンスや病状説明の場面などで、現症や予後についてイメージできる。 3. 認知症が及ぼす患者・家族の社会的・心理的な影響について理解し、ソーシャルワーク実践に生かすことができる。 4. チーム医療の中でソーシャルワーカーの機能・役割について説明し、他職種との連携・協働ができる。 5. 認知症関連の制度政策・サービスなどの課題や限界があれば把握し、必要に応じたソーシャルアクションに繋がられる。
伝 える 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・アルツハイマー型認知症、脳血管型認知症などの代表的な認知症を学ぶ。若年性認知症にも言及する。 ・中核症状や周辺症状の特徴、類似する疾患との違いを理解するなど、必要な知識を系統立てて理解できるようにする。 ・認知症患者が他の疾患の治療のため入院加療する場合などもあることに留意することを促す。 ・認知症が及ぼす社会的・心理的な影響について事例などを用いて具体的に説明し、ソーシャルワーク実践に生かせるようにする。 ・チーム医療やソーシャルアクションの事例などがあれば紹介する。

医療ソーシャルワーカー基幹研修 I -6-⑦	
科 目	医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識⑦ 在宅医療
テ ー マ	在宅医療の枠組みや現状とその課題・在宅医療連携・看取り・在宅療養における医療ソーシャルワーカーの役割について理解する。
研 修 形 態	E-Learning
研 修 時 間	90分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023年、第6章
目 的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療機関におけるソーシャルワーク実践の特徴は、傷病により生じる様々な生活課題を抱えたクライアントに関わることである。このようなクライアントへの問題解決にむけた適切な支援のため、基礎的な医学知識やその対応を理解する。 2. 在宅医療の実際・多職種協働・入退院時の連携や課題・地域医療などにおける医療ソーシャルワーカーの役割を理解する。 3. 在宅医療における患者・家族の社会的・心理的な影響などを理解し、ソーシャルワーク実践に生かせる。 4. 多職種との連携・協働を意識できるようになる。 5. 必要な場合のソーシャルアクションも視野に入れる。
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅医療について理解を深め、理解が難しい症状や対応などについて他職種などに相談できる。 2. 多職種が協働して行うカンファレンスや病状説明の場面などで、療養の現状や病状・予後・必要な在宅支援についてイメージできる。 3. 在宅医療が及ぼす患者・家族の社会的・心理的な影響について理解し、ソーシャルワーク実践に生かすことができる。 4. チーム医療の中でソーシャルワーカーの機能・役割について説明し、他職種との連携・協働ができる。 5. 在宅医療関連の制度政策・サービスなどの課題や限界があれば把握し、必要に応じたソーシャルアクションに繋がられる。
伝 える 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療で多く見られる在宅栄養、排泄障害などについて医療ソーシャルワーカーが知っておくべき知識を理解できるようにする。 ・看取りにおける社会的・心理的な影響について事例などを用いて説明し、ソーシャルワーク実践に生かせるようにする。 ・在宅医療について事例などを用いて具体的に説明し、ソーシャルワーク実践に生かせるようにする。 ・チーム医療やソーシャルアクションの事例などがあれば紹介する。

医療ソーシャルワーカー基幹研修 I -6-⑧	
科 目	医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識⑧ 心疾患
テ ー マ	心疾患の標準的治療や疾病による生活課題・日常診療における医療ソーシャルワーカーの役割について理解する。
研 修 形 態	E-Learning
研 修 時 間	90 分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023 年、第6章
目 的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療機関におけるソーシャルワーク実践の特徴は、傷病により生じる様々な生活課題を抱えたクライアントと関わることである。このようなクライアントへの問題解決にむけた適切な支援のため、基礎的な医学知識を理解する。 2. この講義では、日常生活に影響を及ぼす代表的な疾患のひとつである心疾患を中心に、その標準的治療や副作用などについて理解を深める。 3. 心疾患治療における患者や家族に与える社会的・心理的な影響について理解し、ソーシャルワーク実践に生かせるようにする。 4. 多職種との連携・協働を意識できるようになる。 5. 必要な場合のソーシャルアクションも視野に入れる。
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心疾患について理解を深め、理解が難しい症状などについて他職種などに相談できる。 2. 心疾患の日常診療について理解し、カンファレンスや病状説明の場面などで現症や予後についてイメージできる。 3. 心疾患が及ぼす患者・家族の心理・社会的な課題について理解し、ソーシャルワーク実践に生かすことができる。 4. チーム医療の中でソーシャルワーカーの機能・役割について説明し、他職種との連携・協働ができる。 5. 心疾患関連の制度政策・サービスの課題や限界があれば把握し、必要に応じたソーシャルアクションを行うことができる。
伝 える こと	<ul style="list-style-type: none"> ・心疾患の日常診療の重要性についての医学的知識を含め、ソーシャルワーカーが知っておく必要のある最低限の知識を系統立てて理解できるようにする。 ・心疾患が及ぼす心理的・社会的な影響について事例などを用いて説明し、ソーシャルワーク実践に生かせるようにする。 ・緩和ケアおよび在宅医療については、他の講義で行うため、重複の必要はない。 ・チーム医療やソーシャルアクションの事例があれば紹介する。

医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅰ-7	
科 目	医療ソーシャルワーカーの連携・協働とチーム医療Ⅰ
テ ー マ	医療ソーシャルワーカーの連携・協働に関する意義について理解する
研 修 形 態	Web ライブ研修
研 修 時 間	135分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023年、第7章、168-176
目 的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療分野における連携・協働をめぐる経過について確認し、その役割を理解する。 2. ミクロレベルにおける連携・協働の形態と特徴を理解する 3. チームの種類と発展段階について理解する。 4. 連携では、直接支援（ミクロレベル）の連携・協働と地域における連携・協働（ミクロからメソ）への展開の可能性について理解を促す。
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 連携・協働の意義が明確になり、連携の目的を理解し説明できる。 2. 連携・協働・チームに関する知識を身につけ、専門職として自分の置かれている状況や役割を理解し説明できる。 3. チーム・組織・地域に対するアセスメントをこない、チーム構築・連携体制構築に携わることができる。
伝 える 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・連携・協働の目的を理解した上で、ソーシャルワークの使命について検討する。 ・連携・協働が単に利害対立者・集団間の調整ではなく、アセスメントを踏まえソーシャルワーク実践であることを伝える。 ・連携・協働に関する知識・技術を意識して使えるよう、事例を用いて具体的イメージが持てるようにする。 ・基幹研修Ⅱの「医療ソーシャルワーカーの連携・協働とチーム医療Ⅱ」につなぎ、段階的な学びを意識した講義とする。

医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅰ-9	
科 目	医療ソーシャルワークで用いられる実践理論とアプローチⅠ
テ ー マ	理論に基づくソーシャルワーク支援を理解する。
研 修 形 態	E-Learning
研 修 時 間	90分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023年、第9章、183-195
目 的	<ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワーカー実践は、理論に基づくことでその専門性を高めることができることを知り、実践理論とアプローチを学ぶ意義を理解する。 2. 現代のソーシャルワーク実践の基盤である「人と環境の相互作用」に関する理論を学ぶ。 3. 事例を通して、理論を具体的に理解する。
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワークの実践理論の意義を学び説明できる。 2. ソーシャルワーク実践理論の3層（大きな理論・中範囲の理論・小さい理論）を理解できる。 3. 「中範囲の理論」におけるバイオ・サイコ・ソーシャルモデル、システム理論、エコロジカルモデルを、事例を通して学び、理解できる。
伝 える 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を通して具体的に学ぶ。 ・事例は、基本的にはテキストの事例を活用する。 ・基幹研修Ⅱの「理論・モデル・アプローチⅡ」につなぎ、段階的な学びを意識した講義とする。

医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅰ-10	
科 目	医療ソーシャルワークにおける面接の方法と技術Ⅰ
テ ー マ	医療ソーシャルワーク支援における面接の方法と技術について理解する。
研 修 形 態	E-Learning
研 修 時 間	90分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023年、第10章、196-207
目 的	<ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワーク面接とは何か理解する。 2. 面接の前提について理解する。 3. コミュニケーション力について学ぶ。 4. 傾聴する力を学ぶ。 5. 面接の流れについて効果的な質問法や補助ツールを含めて理解する 6. 面接技術からのアセスメント、介入について理解する。
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門職としてソーシャルワーク面接は何か説明できる。 2. 面接への備えを認識する。 3. コミュニケーションの重要性を知り語・非言語・準言語や会話と対話の違い等を説明できる。 4. 傾聴の重要性を知り、傾聴の技術を身につける。 5. 面接の流れについて説明できる。 6. ソーシャルワークのプロセスを説明できる
伝 える 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーカーが行う面接とは何か的確に伝える。 ・専門職である自覚を持ち、面接を行うための共感・環境などへの備えの必要性を伝える。 ・コミュニケーションとは何か、会話と対話の違い、傾聴する力を学ぶ ・面接の流れやソーシャルワークのプロセスを理解することの重要性を伝える。 ・基幹研修Ⅱの「医療ソーシャルワークにおける面接の方法と技術Ⅱ」につなぎ、段階的な学びを意識した講義とする。

医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅰ-11	
科 目	医療ソーシャルワークにおけるアセスメントの理論と方法Ⅰ
テ ー マ	ソーシャルワークにおけるアセスメントの理論・構成・方法を理解する。
研 修 形 態	Web ライブ研修
研 修 時 間	135 分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023 年、第 11 章、208-218
目 的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 面接技術を基に、アセスメントの概要について理解する。 2. アセスメントの意義を理解する。 3. アセスメントのプロセスにおける位置づけとポイントについて理解する。 4. アセスメントの視点を実践的に理解する。 5. アセスメントの構成要素と情報収集について理解する。 6. アセスメントのためのツールの活用方法を学ぶ。
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. アセスメントの概要や意義について説明できる。 2. アセスメントの視点を認識し、演習を通じてアセスメントの構成要素や統合的・包括的アセスメントを実践的に理解できる。 3. アセスメントツールの意味を理解し、活用できる。
伝えること	<ul style="list-style-type: none"> ・実践事例からソーシャルワークの展開過程におけるアセスメントの意義や位置づけを知り、ポイントを理解する機会をつくる。 ・アセスメントの構成要素、アセスメントに必要な情報について提示する。 ・ソーシャルワーカーとクライアントとの相互作用により、ノーマティブニーズとフェルトニーズをすり合わせ、リアルニーズの特定方法を提示する。 ・実践事例からアセスメントツール（ジェノグラム・エコマップ）の演習を行う ・基幹研修Ⅱの「医療ソーシャルワークにおけるアセスメントの理論と方法Ⅱ」につなぎ、段階的な学びを意識した講義とする。

医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅰ-12	
科 目	ソーシャルワーク記録Ⅰ
テ ー マ	ソーシャルワークにおける記録の重要性について理解する。
研 修 形 態	E-Learning
研 修 時 間	90分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023年、第12章、219-230
目 的	<ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワークにおける記録を書く意義を認識し、歴史的展開と共に学び、ソーシャルワークプロセスに基づいて記録の在り方を理解する。 2. 利害関係者に対するアカウントビリティ（説明責任）について理解し、何のために、誰に対する記録なのかを理解する。 3. ソーシャルワーク記録の書式や記録の内容とその方法・留意点について理解する。 4. 業務分析・評価のための技術について理解する。
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 記録を書く意味について理解し、言語化できる。 2. 保険医療分野における記録の形態や実践的な記載方法について理解し、業務との比較・検討ができる。 3. ソーシャルワークの専門性を言語化して記録することの重要性を理解できる。 4. 記録の種類によって書き方を選択できるようになる。 5. 電子カルテ上における情報共有の危険性に配慮した記録のリスク管理や安全な保管方法について理解し、業務との比較・検討ができる。
伝 える 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・アカウントビリティとステータスホルダーへの社会的責任を、歴史的に学び、理解できることを促す。 ・記録の形態やツールについて理解し、必要に応じて記録形態を選択できるようにする。 ・実践的な記録の記載方法について学ぶ。 ・電子カルテ上の他職種との情報共有の安全性やリスクについて理解できるようにする。 ・基幹研修Ⅱの「ソーシャルワーク記録Ⅱ」につなぎ、段階的な学びを意識した講義とする。 ・ソーシャルワーク業務に必要な業務・統計記録の要素について理解する。

医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅰ-13	
科 目	医療ソーシャルワーク実践の事例検討の方法Ⅰ
テ ー マ	事例を通じた援助技術の理解、専門性の向上を図る。
研 修 形 態	E-Learning
研 修 時 間	90分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023年、第13章、231-242
目 的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療ソーシャルワーカーが事例検討を行う意義を、職業倫理に基づき理解する。 2. 専門職の責務として自らの専門性向上を目指すことを認識する。 3. 事例検討の方法について理解する。 4. 事例検討をとおして、ソーシャルワーク支援は、様々な理論を用いた支援の枠組を考へて実践することを理解し、省察方法について理解する。 5. ソーシャルワーク援助技術について、事例を通じて理解する。
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療ソーシャルワーカーが事例検討を行う意義を説明できる。 2. 事例検討の方法について理解し、目的に依りて選択できる。 3. 事例検討で学んだ省察方法（内省学習方法）を用い、実践力の向上を図ることができる。 4. 医療ソーシャルワーカーの支援の多様性について理解する。
伝 える 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討に参加することによる効果について具体的に理解し、事例検討への参加を促す。 ・スーパービジョンと事例検討との違いや関連性について理解する。 ・専門職として、事例検討を通して省察し（内省学習し）、学び続ける必要性を理解できるようにする。 ・事例検討に参加する際の注意点などを説明する。 ・事例の取り扱い方について理解できるようにする。 ・基幹研修Ⅱの「医療ソーシャルワーク実践の事例検討の方法Ⅱ」につなぎ、段階的な学びを意識した講義とする。

医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅰ-14	
科 目	ソーシャルワークのスーパービジョンⅠ
テ ー マ	ソーシャルワークにおけるスーパービジョン体制の稼働について理解する。
研 修 形 態	E-Learning
研 修 時 間	90分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023年、第14章、243-253
目 的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織内外スーパービジョン体制について理解する。 2. スーパービジョン体制の包括性について理解する。 3. スーパービジョンの理論について理解する。 4. スーパービジョン体制の様式・形態・課題について理解する。 5. 組織におけるスーパービジョン体制の意義について理解する。
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. スーパービジョンは形態ではなくスーパービジョン体制として稼働していること、メソレベルでのマネジメントであることが理解できる。 2. スーパービジョン体制の包括性や基盤、機能について学ぶ。 3. スーパービジョンの理論を学び、実践との比較・検討ができるようになる。 4. スーパービジョンの機能について理解する。
伝 える 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・ スーパービジョン体制は必須であり、すでに構築されていることに気づき、積極的に利用できるようにする。 ・ 組織内外のスーパービジョン体制について区別し、利用できるようにする。 ・ スーパービジョン体制は必須であり、スーパービジョン文化の醸成の為の基盤となるようにする。 ・ 基幹研修Ⅱの「ソーシャルワークのスーパービジョンⅡ」につなぎ、段階的な学びを意識した講義とする。

医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅰ-15	
科 目	医療ソーシャルワークの業務改善マネジメントⅠ
テ ー マ	業務改善マネジメントの基盤について理解する。
研 修 形 態	E-Learning
研 修 時 間	90分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023年、第15章、254-266
目 的	<ol style="list-style-type: none"> 1. SW 実践は組織レベルで規定される「業務・事業」であるという認識を持てるようになる。 2. 報告・連絡・相談は職場との交互作用であることを理解し、メソレベルの活動として認識する。 3. 組織での人材養成開発体制の意義について社会的背景を踏まえて理解する。 4. 人材養成開発体制の枠組みと用語を学ぶ。 5. スーパーバイザーの立場でのSV 発達段階レベルを理解できる。
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワーク実践は、個人によるものではなく、組織レベルで規定される「業務・事業」であるという認識する。 2. 報告・連絡・相談は職場との交互作用であることを理解し、メソレベルの活動として業務にあたることができるようになる。 3. 組織での人材養成開発体制の意義を、社会的背景を踏まえて説明できる。 4. 人材養成開発体制の枠組みと用語を理解する。 5. スーパーバイザーの立場でのSV 発達段階レベルを確認できる。
伝 える 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報連相・カンファレンスについて理解できるようにする。 ・ 業務マネジメントとしての人材開発体制について、メソレベルのアセスメントができるようにする。 ・ 基幹研修Ⅱの「医療ソーシャルワークの業務改善マネジメントⅡ」につなぎ、段階的な学びを意識した講義とする。

医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅰ-16	
科 目	ソーシャルワーク・リサーチⅠ
テ ー マ	調査・研究・ソーシャルワーク実践との関係を理解する。
研 修 形 態	E-Learning
研 修 時 間	90分
テ キ ス ト	中央法規『保健医療ソーシャルワークの知識と技術ーキャリアアップのための実践力の構築ー』2023年、第16章、267-276
目 的	<ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワーク実践におけるソーシャルワーク・リサーチの間接的援助技術の一つとしての意義を理解する。 2. ソーシャルワーク・リサーチの基本概念（調査・研究）と展開過程について学ぶ。 3. ソーシャルワーク・リサーチとソーシャルワーク実践との関係について学ぶ。
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワーク・リサーチの基本概念を説明することができる。 2. ソーシャルワーク・リサーチの展開過程を説明することができる。 3. ソーシャルワーク・リサーチの手法が実践に生かされていることを理解する。
伝 える 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・演習やセルフワーク等を用いて、ソーシャルワーク・リサーチとソーシャルワーク実践の関係性について理解できるよう、具体例などを用いて説明する。 ・ソーシャルワーク・リサーチの成果がソーシャルワーク実践の根拠となり得ることを理解できるよう、調査・研究資料等を示しながら説明する。